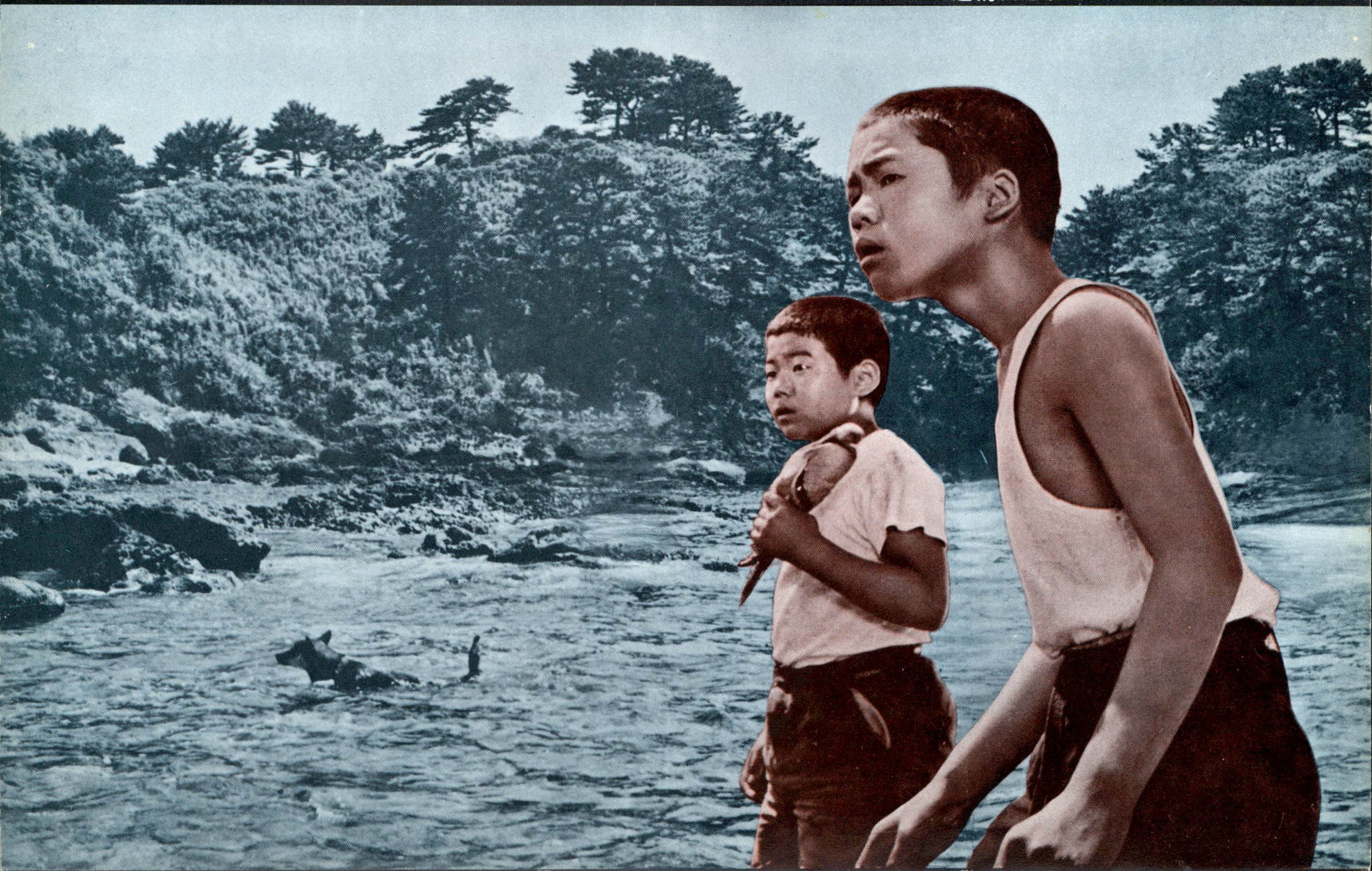


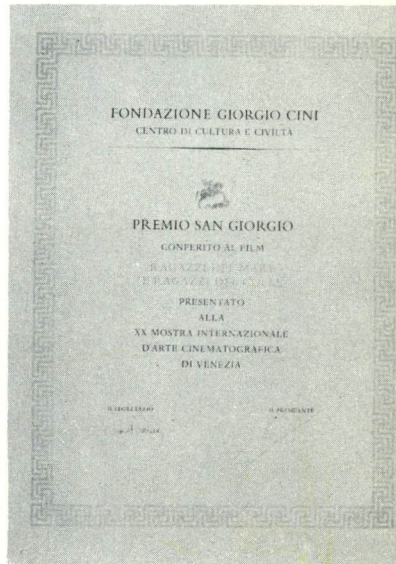
ヴェニス国際映画祭
サン・ジョルジュ賞に輝く

海っ子山っ子

8巻

NHK連続放送劇「でんでん虫の歌」より

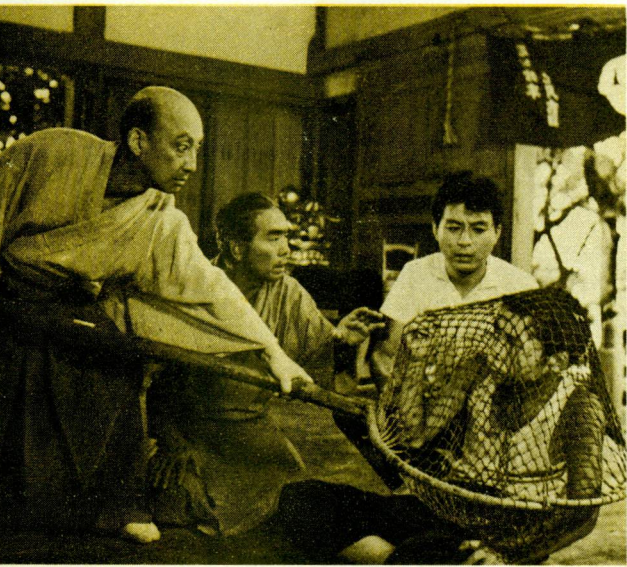




「ビルマの 豎琴」(日活作品)について

二度目の日本の受賞!

大衆がえらぶ名誉ある賞!!



サン・ジョルジュ賞とは
ヴェニスといえば水の都を連想されるように、ヴェニスは多くの島から成り立っています。その島の一つ、サン・ジョルジュ島は古くから有名なカソリックの教会があり、全島教会という小さな美しい島です。日曜日には人々は舟で礼拝に集まります。毎年、華やかに行われるヴェニス映画祭には、世界各国から優秀な作品が出されますが参加したすべての作品は映画祭で上映された翌日、サン・ジョルジュ島の近くの本土にある活気に富む産業都市、テレビゾーの大きな映画館にかけられ、その地の一般の人々の人気投票を行うのが恒例になっています。その投票に基いて、カソリック系の大財閥である有名なチーニ財団が設立した人文、文化センターの審査委員会が、記録映画、児童映画、劇映画の三部

門について、サン・ジョルジュ賞にあたいる作品かどうか選考します。選考の基準は、一口に云えば「誠実に人生の光明面を昂揚して行く」作品を取り上げることになっているようです。審査委員会からのレポートにも「人間生活の諸問題を解決する為に貢献する価値を持たないものは授賞には値いしない」とはっきり述べています。人間の精神生活に建設的な指針を与えているか否かが基準であるようです。一口にいったらヒューマニズムを昂揚する作品ということで、日本で昨年「ビルマの 豎琴」が受賞していることでも分ります。「海っ子、山っ子」は、わが国としては二度目のサン・ジョルジュ受賞になるわけです。

受賞の日九月六日には関係者数百人がサン・ジョルジュ島に渡りました。日本人では川喜多長政氏と大映の加賀洋画部長がホテルからモーターボートに乗って駆けつけました。もう数百人の外人記者その他の人びとが集っていたそうです。教会は後期ルネッサンスのすばらしい建物です。教会の裏には海を背景にした大理石の美しい野外劇場があります。教会堂の中は美術史上に有名なチントレット壁画に囲まれて、荘厳を極めています。その堂内で盛大な授賞式——賞状と賞牌の伝達式が行われました。大映の加賀さんが桜映画社に代って日本代表として受けとって、飛行機でたずさえて帰って下さったのでした。(写真参照)

原作・脚色の 筒井 敬介
サン・ジョルジュ賞というものが、いわば大衆投票を基盤として決定されるとき、安心もし、ありがたしとも思った。ともかく、九一年間、伊豆東海岸I町で、テプレコターを肩に材料を集めたことも、無駄ではなかった。生産条件の違いが、子どもの気質と生活にどう反映して行くかを、ユーモラスに煮詰めみたかったのだが、私が夢にもみたことのない外国で、わかつてもらえたことは、意外な幸運であったと思う。

龍宮館の婆ちゃんの 飯田 蝶子
私は教育映画が好きにならないうちに、桜映画は「今どきの嫁」以来何本も出演して、親類のように思っています。「海っ子山っ子」は日活さんが配給に際して名づけたもので、撮影のときの題名は「でんでん虫の歌」でした。ロケ地は伊豆の桶取町というのどかな漁港で、何日も引っぱられましたが、自宅が遠くない熱海です。楽しいロケでした。こういう作品が、国内ではとくに知らんふりをされがちですが、海外でこんなにも各国出品全部の長篇映画をけつとばして堂々受賞するなんて、愉快なことです。(談)

京助とゴリラの少年たち
主役の京助とゴリラ君になった高田君と吉田君は、映画には出演しないことになっているNHK児童劇団秘蔵の小学生と中学生だが、原作がNHK連続放送劇だったために、初の映画出演となった。しかしセリフはうまいし、演技も自然で、木村監督をすっかり感心させた。この映画は、日本大が活躍するが、これは東京に所有者がいる紀州大の名大(雄)で、且那の雄も同伴で旅館の庭にこれも長期滞在していた。庭にはハトも飼育されていた。少年、犬、ハト、海と山、これだけそろえば、撮影は大へんだが、楽しくならざるを得ない(製作者)

桜映画社の近作

たくましく母親たち 5巻

第四回教育映画コンクール受賞
若い母たちのエネルギーあふれる意欲が、すばらしい保健地区組織を育てあげる!

海の恋人たち 7巻

たまの会う瀬にもえる幾組かの海員夫婦の愛情を、はのぼりと描く名匠木村莊十二の名作。

再起への道 2巻

結核の手術から立ちあがる機能体操を描く。

イーストマンカラー記録映画

日本の民芸品 2巻

十六ミリ版 販売価格

¥210000

(長サ一、九七二米)

上映時間一時間十分

株式会社 桜映画社

東京都中央区八重洲3-5 槇町ビル
電話 (271) 7611・7612 番

平和の鐘をうちならす二人の少年！山と海に少年が結ぶ愛と冒険の心暖まるロマン！

文 部 省 選 定
 日 本 P T A 全 国 協 議 会 特 選 定
 青 少 年 映 画 審 議 会 推 薦
 中 央 児 童 福 祉 審 議 会 推 薦
 全 国 地 域 婦 人 団 体 連 絡 協 議 会 推 薦
 日 本 青 年 団 協 議 会 推 薦
 都 下 学 生 映 画 愛 好 連 合 推 薦
 東 京 都 教 職 員 組 合 推 薦
 東 京 映 画 愛 好 連 合 推 薦
 東 京 都 教 育 委 員 会 選 定

企 画……………静岡岡県婦人
 協 賛……………団体連絡会
 製 作……………中外製菓株式会社
 原 作……………村山英治
 脚 本……………筒井敬介
 N H K 連 続 放 送 劇「でんでん虫の歌」より
 監 督……………木村莊十二
 撮 影……………木塚誠一
 音 楽……………林光

キ ャ ス ト
 ゴリラ君(六年生)……………吉田春夫
 助(五年生)……………高田恭朗
 早見先生……………吉沢久嘉
 青葉丸……………松本克平
 柏木(主)……………小笠原章二郎
 校長……………御橋公
 龍宮館の婆さん……………飯田蝶子
 バスガールのなみ子……………有田紀子

海っ子山っ子



物 語

若い小学校教師早見先生が、伊豆半島の沖浦町に赴任すると待ちかまえていたのは、大猿の仲の磯野(漁民部落)と、大畑(ミカン山部落)の大人共だった。

早見は磯野で先にバスから降ろされ、竜宮館に無理に下宿させられ、網元の青葉丸の案内で岬の乙姫神社でおはらいをうける。オハライの真最中に拝殿の奥から、京助という山っ子が鳩をもつて飛出してきて大騒ぎになった。

早見先生はいきり立つ青葉丸をなだめて、少年と鳩小屋を見に行くことになる。

そのとき、ひそかにあとをつけて来たのはゴリラ(六年生)をガキ大将とする磯っ子たちだ。そしてミカン山で京助とゴリラの取っ組み合いが始り、とめにか、った早見は、磯っ子たちにひっくり返され、着任早々さんざんな目にあう。※

解 説

この作品は、一年間に亘ってNHK連続放送劇として好評を博した筒井敬介原作の児童劇「でんでん虫の歌」を映画化したもので、この種児童ものに心血を注いでいる木村莊十二監督が演出に当たっている。

山と海のある町、そこに住む浜辺の部落民とミカン山のある部落民との因襲的な反目が、磯っ子、山っ子と呼ばれる少年たちの因襲を越えた友情と共感によって和解して行くまでの話を、ローカルカラーに富んだ風景を背景に、二人の少年の漂流と犬と鳩が大活躍するスリルに富んだ物語を織りまぜながら描いた心暖まる少年たちのロマン。

演技陣は、飯田蝶子、小笠原章二郎、有田紀子、松本克平らの他、主役の二人の少年には全国の小・中学校から募集して当選した吉田春夫君と高田恭朗君が扮しています。

(映写時間 一時間十分)

※ミカン山は摘果の季節である。

京助の父の田川は、摘果の仕事に磯っ子も使ってみたいと校長に申し入れる。先生は、磯っ子と山っ子がお互の仕事を知り合うことによって仲よくなるのではないかと、この申出を歓迎する。しかし、磯っ子たちが摘果のアルバイトに始めてミカン山に登って行くと木の上にかくれた山っ子たちは、磯っ子目にかけてミカンの実をぶつけ、フンガイして応戦したゴリラは、田川に見つかって追及された、そして父親の青葉丸からは意気地なしめと殴られて、竜宮館のおばあちゃんのところへ大声をあげて泣いてくる。竜宮館には早見が乗ってきたバスの、バスガールのなみ子さんも下宿していた。京助はなみ子と仲よしで、鳩をふやしたい一心から、なみ子に借金を申込んだ。なみ子さんはそれが教育的にみてどういうものかと、京助をつれて早見の部屋に現れた。そこには泣き止んだばかりのゴリラ君がいる。京助とゴリラは犬と猿のように構えるが、やがていっしょに夜道を帰えるころには、先生のとりなしで二人の間にはひそかに休戦が成り立った。さて、アルバイトの磯っ子たちが、大勢でミカンの摘果をはじめた或日のこと、京助の父の田川は、いつか乙姫神社に逃げたクセの悪いオス鳩をうかつにも小舎から出してしまった。空高くかけて飛び去るオス鳩を見つけてあわてたのは京助だ。折も折りメス鳩は卵を二つ生みそろえて抱きはじめていた。鳩はオスとメスが交代で卵を抱く、一方が欠けるとヒナはかえらない。

夜になっても愚かなオス鳩は帰らない。京助は心配の余り、また乙姫神社へ探しに出かける。祭の前夜で、笛の練習をしていたゴリラが愛犬のテツといっしょについてきた。鳩は神社裏の荒磯に突出た高い松の大枝にとまっていた。山っ子は木登りとはどんな高いところでも平っちょらだが、ようやく鳩をつかまえた瞬間、重心を失って暗い海へ落ちてしまった。あわてたのはゴリラで、「京助、京助」と呼びながら、ようやく小舟を出した。テツもつながらた縄をふり切って泳いできた。小さな岩にはいよった京助を、ゴリラが収容したとき、ろが流れて、二人を乗せた小舟は沖へ向って漂流をはじめた。村では大人たちが大騒ぎをはじめた。京助とゴリラとテツを乗せた小舟は夜明ごろ無人島に漂着する。夜が明けはなれると、ゴリラは、手紙を書いて釣針入れの容器に入れて、テツの首にゆわえ海に放した。テツは荒浪に向って泳ぎ出した。

大人たちの争いが頂点に達したとき、テツはようやく海を泳ぎ渡って青葉丸に吠えか、った。

京助とゴリラを収容した船が、村中総出の港につくと、青葉丸は田川と固く握手をし、磯野と大畑の多年の確執もこの騒ぎでふっ飛んでしまった。

やがて、磯っ子も山っ子もいっしょになって楽しむ夏祭がやってきた。